

平成27年度 景観・デザイン委員会 第1回親委員会

議事要旨

■日時：2015年7月13日（月） 17:00～19:00

■会場：土木学会 A 会議室

■出席者（敬称略）：

<委員>北村委員長、伊藤委員、久保田委員、上島委員（新任）、佐々木委員（退任）、松井委員、松田委員

<委員兼幹事>重山幹事長、飯田幹事、井上幹事、大波幹事、増田幹事（新任）、西村幹事（H26 途中新任）、木村幹事、福島幹事、水谷幹事、横山幹事（退任）、白柳幹事（新任）

<小委員会>中村委員（景観・デザイン研究編集小委員会副委員長）

■議題：

1. 委員長挨拶
2. 幹事長挨拶、新体制の確認
3. 新・旧委員および委員兼幹事紹介
4. 各小委員会等活動報告および本年度の活動について
 - ・景観・デザイン研究編集小委員会【H27 研究発表会開催地変更他】
 - ・学会論文集 D1 編集小委員会（口頭報告）
 - ・デザイン賞選考小委員会/デザイン賞検討 WG
 - ・土木デザインコンペ実施ガイドライン検討 WG（H26 終了報告）
5. その他報告
 - ・H26 年度活動実績と H26 年度活動度評価
 - ・会計関連、H26 会計報告、H27 予算について
 - ・JSCE2010 自己評価（H26）、JSCE2015 活動計画（H27）
 - ・H27 シンポジウムについて
 - ・H27 土木学会賞（研究業績賞、論文賞、論文奨励賞）推薦手順の確認
6. 情報提供・意見交換
 - ・共催行事
 - ・社会インフラ維持管理・更新特別委員会（コラム執筆）
 - ・国土形成計画パブコメ提出
 - ・その他

■資料：

- ・議事次第
- ・資料-1 委員会構成メンバー表他
- ・資料-2 景観・デザイン研究編集小委員会
- ・資料-3 デザイン賞選考小委員会/デザイン賞検討 WG HP 整備概要・英訳実施状況等
- ・資料-4 土木デザインコンペ実施ガイドライン検討 WG 活動報告
- ・資料-5 H26 年度活動実績（学会本部に提出）
- ・資料-6 H26 年度活動度評価（学会本部より受領）
- ・資料-7 会計関連 H26 年度会計報告、H27 年度予算について、予算計画の考え方他
- ・資料-8 JSCE20XX 関連 JSCE2010 自己評価票、H27JSCE2015 活動計画（学会本部に提出）
- ・資料-9 H27 シンポジウム/シンポジウム検討体制について
- ・資料-10 土木学会賞推薦手順確認
- ・資料-11 共催行事参加人数（※日数関連で行事報告提出は保留）
- ・資料-12 社会インフラ維持管理・更新特別委員会意見提出結果
- ・資料-13 国土形成計画アブコメ意見提出結果
- ・資料-14 第1回景観・デザイン委員会親委員会（2015.12.7）議事要旨・議事録

議事要旨：

1. 委員長挨拶

- ・北村委員長より挨拶がなされた。

2. 幹事長挨拶、新体制の確認

- ・重山幹事長より挨拶がなされた。

(重山幹事長) 福井委員の任期が長かったので、昨年度で退任。現在、後任を探している。

3. 新旧委員および委員兼幹事紹介

- ・各委員および委員兼幹事により自己紹介がなされた。

4. 各小委員会等活動報告および本年度の活動について

1) 研究編集小委員会

- ・中村小委員会副委員長より資料-2について説明がなされた。

(伊藤委員) 発表規定・投稿規定の中で、講演論文の著作権について、景観・デザイン委員会独自のルールが設けられているが、学会基準に準じる形へ変更した方が良い。

(伊藤委員) 研究編集小委員会から、発表の採点結果が高かったものをはじめ、研究発表会参加者へD1分冊に投稿してもらうよう働きかけをお願いしたい。論文投稿システム改正のタイミングで働きかけると、混乱が少なく済むものと思われる。

(松井委員) コンサル若手が中心となって研究発表会を運営している一方、コンサルの人間による発表が少ないので、もう少しコンサル社員の参加率を上げるための工夫を検討されたい。論文を投稿することが、実務者の評価につながるような工夫が求められる。コンサル社員については、発注者と連名で発表することも検討されたい。

(伊藤委員) 研究発表会に投稿した実務者に、CPD付与される点もPRする必要がある。

(横山委員) 冊子の外注についても検討されたい。

(松田委員) 背表紙付A4版は書類を整理する上で便利で、存在もわかりやすいので、冊子の大きさをA4背表紙付きに変更することも検討されたい

(北村委員長) 当初、山梨大学での開催を予定していたが、開催予定日に大学院博士過程の試験が入った。日程を前倒し・後倒しさせるより、会場変更で対応した方が良いと最終的に判断した。

(佐々木委員) 講演論文については、ページ数に応じた投稿料が課されているため、最低ページ数を2ページから4ページへ引き上げることは、再度検討されたい。現実的に2ページの論文が投稿されることは極めて稀であるが、2ページ以上と規定されていた方が、投稿者にとっての心理的な負担が少ない。電子媒体にて論文頁数比例料金というのも検討の余地がある。

(中村小委員会副委員長) 収支も含めて、投稿料の変更を検討する予定である。

2) 学会論文集D1編集小委員会

- ・伊藤委員より学会論文集D1編集小委員会の活動報告がなされた。

(伊藤委員) 新体制として、東北大学平野勝也先生が幹事長を退任し、日本大学岡田智秀先生が後任となり、新委員として、福岡大学の柴田久先生、長野大学の熊谷圭介先生に委嘱予定である。

(伊藤委員) 親委員会の負担を軽減するためにも、投稿数が増えるよう工夫を図りたい。

(伊藤委員) 投稿から掲載まで、早いもので8ヶ月、概ね10ヶ月くらいかかっている。修正指示に対して、査読者が意図する方向とは異なる方向へ対応してしまった場合、複数回の修正指示が発生し、

査読に時間がかかる傾向にある。

(伊藤委員) 内容が面白いものについては、多少完成度が低くても、査読を通じて論文集へ引き上げられるよう取り組んでいる。

(北村委員長) 複数の論点を含む冗長な論文について、対策を検討されたい。

(伊藤委員) 論文のスタイルまでは、小委員会から修正指示をすることは難しい。

3) デザイン賞選考小委員会

・ 福島幹事より資料-3 について説明がなされた。

(福島幹事) デザイン賞検討WGについては、小委員会の中で継続検討を実施している。

(福島幹事) 今年度は、7月6日に応募を締め切ったところ、新規8件、昨年度の繰り越し1件、計9件の応募があった。応募数は少ないながら、全体的な作品のレベルは高い印象を受ける。橋梁をはじめとする土木作品が多かったため、今後、ランドスケープや建築方面からの応募が増えるよう働きかけたい。

(福島幹事) 今年度は、デザイン賞HPのリニューアルに取り組んでいる。応募者がより適切に情報を得られるような構造に改善するとともに、デザインを作品選集と統一することで、ブランディングを図りたい。英訳を活用した海外へのアピールも進めていく予定である。作品の概要等、作品選集に載っていない情報をHPに掲載することも検討したい。

(福島幹事) 詳細情報のWeb公開を見据えて、作品選集については、年度内で売り切ることを目標とする。

(福島幹事) 昨年度は一次選考を通過した作品の件数が多かったこともあって、実見の費用が高んだ。実見の費用は、一次選考が終わるまで、どれくらいかかるか見当がつかないので、適宜、記念品や作品選集の販売等で対応していきたい。

(木村幹事) これまで親委員会から予算を受け、作品紹介の英訳を進めてきた。2006年度～2012年度の全作品と、2013年度の7作品について、英訳が完成している。随時、HPへ掲載するとともに、今年度も親委員会から予算が付けば、引き続き作業を進めていく予定である。

(松井委員) 将来何かしらの形で役に立つと思われるので、英訳は継続されたい。

(大波幹事) 今年度も、英訳のための予算を確保する予定である。

(伊藤委員) 英訳について、掲載料を徴収することも検討されたい。

(福島幹事) 関係者の人数が多い作品については、掲載料等の追加料金を課すことも検討したい。

(福島幹事) 賞の経営的には課題があるものの、実物を見ないと正確な評価ができないということもあり、応募作品に余程の問題がない限りは、実見を行うというスタンスをとっている。

(伊藤委員) D1分冊に移行して以来、デザイン作品カテゴリーでの投稿が一つもないので、見直しを検討されたい。設計者の口から語られる情報は、将来、研究者にとって貴重な資料となり得るので、デザイン賞と連携を図りながら、作品を都市空間に組み込んでいく上での工夫等を、論文としてとりまとめてもらえるよう働きかけたい。デザイン作品カテゴリーは、査読基準が他カテゴリーとは異なるので、ハードルが高いと思わず、積極的に応募できるよう働きかけたい。

(福島幹事) デザイン賞へ応募するモチベーションと、査読付き論文を投稿するモチベーション、両者を持ち合わせた実務者が非常に少ない。デザイン賞授賞式で受賞者へD1分冊への投稿を募る、受賞者向けの資料一式の中に投稿の依頼を入れる等の対応を検討したい。

(久保田委員) 実務者で博士号を持っている人は少なくないが、景観分野に関しては非常に少ないのが現状である。実務者が博士号を取得するにあたり、査読付き論文があると有利であるということも踏まえ、デザイン賞受賞者がD1分冊の作品部門に積極的に投稿し、博士学位取得への足掛かりとし

ていただくことを期待したい。そのためには、コンサルが博士号保有者へ手当を付ける、発注者が特殊業務の発注において博士を優遇する等のインセンティブを設けることに期待したい。

4) 土木デザインコンペ実施ガイドライン検討ワーキング

・久保田委員より資料－4について説明がなされた。

(久保田委員) 親委員会を移ってから、引き続き、土木事業におけるデザインの質に係るコンペを対象とした活動を展開している。デザインコンペの意味する内容が不明瞭なので、ワーキングの名称を変更した。

5. その他報告

1) H26 年度活動実績と H26 年度活動度評価

・井上委員より資料－5・6について説明がなされた。

(横山委員) 共催の活動について、学会から参加者名簿の提出を求められるが、個人情報を取り扱うことになるので、別の方法で活動状況のエビデンスを提示することを検討されたい。

(林職員) 参加者名簿の提出は、昨年度から始まったルールで、他の委員会からも同様の声が上がれば、今後変更する可能性もある。

(林職員) 行事で作成した書籍等の販売について、学会経由で販売するか・しないかで、売り上げの取り扱いが変わってくる。学会を経由しない場合は、行事開催年度内のみ販売ができ、各小委員会の売り上げとして計上される。

2) 会計関連、H26 会計報告、H27 予算について

・大波幹事より資料－7について説明がなされた。

(大波幹事) 昨年度の四万十川ひなまつり関連企画のように、イベントの企画があれば、予算を確保するべく、早い段階で相談されたい。また、2月上旬頃に残予算処理等の検討のため、幹事会を開催することが望ましい。

(福島幹事) デザイン賞選考小委員会の収支は、記念品の購入や受賞プレートの設置等に大きく左右されるので、受賞式の後に予算のとりまとめを行うのが望ましい。

3) H27 年度シンポジウム

・水谷委員によって資料－9の説明がなされた。

(水谷委員) シンポジウムの会場費は親委員会にとって、予算上の大きな負担となっている。現在、研究編集小委員会の負担を軽減するべく、親委員会がシンポジウム運営に係る人的支援を行っているが、人的負担は親委員会、金銭的負担は小委員会という形で、分担することも検討されたい。また、親委員会がシンポジウムの人的・金銭的負担を担うのであれば、親委員会が企画の主体となることも検討されたい。

(林職員) シンポジウムを無料行事として開催する場合、『無料』の意味合いからして収入も支出もなし、というのがルールとなる。ただし本来はNGであるが、実施主体(親委員会・各小委員会)がどこであれ、行事運営のために親委員会予算から一部費用を負担するケースは他委員会含めてある。有料行事の予算で無料行事の支出を負担することはできない。

(佐々木委員) シンポジウムについて、お金の出所と人の出所が、必ずしも一致する必要はない。

(重山幹事長) シンポジウム会場が研究発表会と同じ大学の敷地内なのであれば、研究発表会のスタッフがシンポジウムの設営等についても担当するのが良い。

(北村委員長) シンポジウムが金曜日開催なので、誰をターゲットにするのか、意識しながら企画されたい。

(松井委員) シンポジウムのテーマを親委員会が決めるべきか、検討されたい。

(佐々木委員) 親委員会がシンポジウムを主催するということであれば、担当を依頼された委員兼幹事は責任もって取り組んで欲しい。

(水谷委員) 大学と関係のない場所をシンポジウム会場にしたのは、仙台開催の1件だけである。

(重山幹事長) 基本的にはこれまでと同じやり方で、シンポジウムを開催するという事で合意した。

4) JSCE2010 自己評価 (H26)、JSCE2015 活動計画 (H27)

・井上幹事によって資料-8について説明がなされた。

(井上幹事) 資料の量が膨大なので、基本的には委員長と幹事長の了解をもって提出している。今後も、案件により必要に応じてメール審議による検討を行う。

5) H27 土木学会賞推薦手順の確認

・伊藤委員によって資料-10の説明がなされた。

(伊藤委員) 景観・デザイン部門の表彰者については、委員会内部で連携をとりながら、7月下旬頃から候補者のピックアップに取りかかりたい。

6) 共催行事

・井上幹事より資料-11について説明がなされた。

7) テキストブック

・井上幹事より資料-12について説明がなされた。

(井上幹事) 久保田委員が「社会インフラメンテナンス学」テキストブック「総論編」にコラムを執筆し、掲載されることとなった。

8) 国土形成計画(全体計画)(原案)等に対するパブコメ

・井上幹事より資料・井上幹事より資料-13について説明がなされた。

(井上幹事) 国の施策に対するパブコメは、長期的に意味のある取り組みなので、引き続き取り組んでいきたい。

(松田委員) 国交省の主要課題を整理した技術基本計画の中で、理念としては景観の向上が謳われているものの、具体の施策について書かれていないので、パブコメを通じて景観に関する施策を盛り込んでもらう今回のような活動は、非常に意義がある。

6. 情報提供・意見交換

1) 福井委員の後任

(佐々木委員) 親委員会は年に2回程度しか開かれないので、年度の途中から委員に加わってもらうのは、タイミングとして好ましくない。また、充て職以外のポストの選任については、誰が前任だったか、考慮する必要はない。

2) パブリックデザインコンソーシアム設立シンポジウム

(伊藤委員) 公共空間整備に係る制度とデザインについて考える団体として、パブリックデザインコンソーシアムを設立する運びとなった。7/18にシンポジウムを開催するので、興味がある方は参加さ

りたい。

以上
(文責：西村)